



「計画達成を楽しみながらの経営」

養豚経営：十日町市下条 生越 良子氏

豚が一列に並んで寝ている姿を見て、豚の丸焼きがイメージされ「おいしそうだ。」と思ってから早くも二十数年が経過してしまいました。

養豚経営に従事した頃は、ただの手伝いという感じで仕事をしていましたが、畜産会の経営コンサルを昭和53年に受診してから、数値で検討できることに深く興味を感じ、自分で経営分析が行えるようになり経営改善に役立てました。二度目のコンサルを機会に「記帳もできるし、技術も何とか出来ているので若い二人に任せたら」との助言から養父より経営移譲がなされ、この時から私達の養豚経営が始まりました。経営の安定を取り戻すために、飼養技術の向上と経費の無駄を無くすことに努力をしました。結果として5年くらいで実を結び無借金経営になることができました。次ぎに新たな目標を設定し「今度は規模拡大し、二人で築く養豚」を目指しました。飼養管理では、いろいろ新しいことを試みましたが、「基本が一番」と気づいてからは飼養管理が安定しました。

また施設のほうもなるべく手のかからない様に建設しました。記録では飼養管理データを毎年出して成績向上に役立ててもらい、経理では五年間の記帳を元に、支払いや貯蓄の計画を立てて突然の支出に対応できるようにと財務内容の充実にも努めました。

他にもいろいろと考え、とにかく簡単で無駄を省くことに努力しております。現在でも、当時の考えたことを実行して役だっている事柄が多く有ります。

次に直接は経営に関係しないことですが、初めて豚舎を見た時に思ったことは、「なんと殺風景で汚いなー」です。そこで何とかしなくてはという思いから、仕事の合間をみては、花を植え、草取りをして、少しずつ花壇らしくしてきました。最近では、散歩で通る人、近隣の人達から「きれいだね。」と声をかけてもらい又友達も時々寄ってくれるようになりました。

我が家では家族経営協定を結び、パートナーとしての自覚を強めています。夕方の一休みに過去を振り返って、若さに任せて一生懸命頑張っていた頃を懐かしく思い出しながら「今度は何を。」と小さな夢を語り合っています。そんな時、子供達が突然手伝いにきてくれたりすると、うれしさに話が弾み「今日の仕事は何時に終わるのかな…」と密かに思ってしまう今日このごろです。

「社会体育活動への取り組み」



酪農経営：糸魚川市大字厚田 穂苅 晃氏

畜産経営においては急速に機械化が進み、経産牛30頭規模の我が家の酪農経営においても、近年、自動給飼機の導入等を行って来ております。

しかしながら、酪農経営は毎日、朝、夕の搾乳作業があり、なかなか自分の時間を確保することが困難な状況にあります。そのような中で、酪農経営同様、地域に根ざした活動の一環として、私の社会体育への取り組みを紹介させていただきます。

始まりは平成9年4月で、小学校の先生から今度、学校活動ではなく社会体育でのミニバスケット教室を開きたいが、指導者として参加してほしいと言われました。

保護者の代表、先生、私が集まり、最初の立ち上げ会議を開催し、これからの目標、運営方針等を決定した後、最後に女子のコーチを私にとお願いされました。しかし、いくら小学生が相手といっても、指導経験がなく、他人の子供に教える程の技術もない自分にできることは子供達と一緒に練習を行い、大声を出すこと位でした。

あれから5年が過ぎ、現在は、目標である県大会にも出場できるようになり、皆、喜んでおります。

本年4月に、当時の小学校の先生が転勤され、本当の意味での社会体育になった、我が「大和川ミニバスケットボール教室」を今後、地域の指導者、保護者、子供達が一体となってさらに盛り上げていくことが大切であると思っています。

今の世の中、少子化、学校、塾と子供達もそれ程、暇な時間がない中で、週3～5日間の練習は大変とは思いますが、勝利に向かう子供達と、指導者、保護者が共に、満足でき、思い出に残るミニバス教室であることを願っております。